

2月の生活表

2025年 2月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：響き合う

保育日数（18日）

月目標（3歳児）

- ・祈りが習慣となり、自分や家族のことを祈ろうとする
- ・気の合う友だちと遊び、気持ちが通じる楽しさを感じる
- ・寒さの中にあっても、草木が春の準備をしていることに気がつく

月目標（4・5歳児）

- ・イエスさまとのつながりを一人ひとりが感じて過ごす
- ・お互いに存在を認め合い、相談しながら、時間をかけて思いを実現していく過程を楽しむ
- ・冬の自然の中に次の季節への備えを知る

今年も早や1ヶ月がすぎ1月も行ってしまいましたね。やはり2月の声を聞くと寒く、冷たく雪がちらつくの喜びの反面、空を見上げて今年もこの時を過ぎないと「春」は来ないよねとしばし風にまう雪を眺めたりしています。昨年の4月よりこの園で過ごしてきた子どもたちの10ヶ月。それぞれの長さの関わりは違えども、それぞれの歩みの中で、しっかり子どもたちは成長してきたことを感謝したいと思っています。これは保護者と幼稚園の連携に他なりません。そして残されたあと2ヶ月から次のステップに向かうそれぞれの気持ちを大切に、集団の中にあつての個々を見つめていきたいと考えています。大寒の日の朝日新聞の「天声人語」に書かれていたことです。それは「京の桜守」として知られている有名な藤右衛門さんの言葉（自著）です。桜を愛でる時、桜（お花見）のトンネルも良いけれど、その中の好きな1本だけに目を止めてみるのはどうだろうか。春・夏・秋・冬の季節を通すことで自然を感じることができるから。咲いた時だけが桜ではない。紅葉で落ち葉になる時には次の花芽が生まれ、それは雨風、雪にも耐えられるような硬い葉で覆われている。寒さが厳しければ成長を止めて「休む」。そして、春の気配を感じて蕾が膨らんでくる。その時を「笑いかけ」というそうです。これを読んだ時、今までにも、自然の中にある植物の成長は、人間の成長と類似しているということは、神様の創造の中に在っては同じなんだと思っていました。でもこの記事を読んで、改めて子どもたちの姿を思い起こしました。ご両親から受けた硬い葉（腕）の中で守られ、支えられ、生まれ育ってきた子どもたち。そして、集団の中にあつて、私たちが一人一人を見つめ、そのお子さんの成長に添いたいと思うことの毎日。それはまさしく、たくさんの桜の中から1本ずつを愛でていくことなのだと思います。そして、綺麗に花が咲いたということのみではない、それぞれの成長過程での育ちがあるということの重要性であり、大切さなのだと思います。一年の季節を巡っていく中で、しっかり成長に向き合いたいものです。さらに、子どもたちが困ったときに、安心して懐に入れる愛着（アタッチメント）が得られるかどうかで子どもたちが、将来自由に羽ばたけるかどうかが左右されると言われるくらい大切な親子関係。今の間にたった5分から10分間の親子の関わり（活動）を家庭で行うことがそれに繋がると言われています。夜寝る前の10分の絵本で繋ぐ大切な時間を持ってくださいませんか？ 今しかないのです。お忙しくてもその10分の間にお子さんとの対話を交わすことができると、きっとお子さんの成長が見て取れるでしょう。親子の愛着大切に

《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：1 月 月間主題：かさねる

月聖句：わたしは弱い時にこそ強いからです。

(コリントの信徒への手紙 2 12:10)

パウロという人物は、キリスト教史上、最も偉大と言っても過言ではない人物です。新約聖書の約 3 分の 1 にも及ぶ分量の文書を書き、「信仰義認」や「十字架による人類の罪の贖い」など、キリスト教の中心となる教えを確立しました。また、ユダヤという小国の一地方で発生したキリスト教を、どんどん外部に伝道し、最終的にはローマ帝国の中心であるローマにまで伝えました。彼はこの地で殉教したのですが、彼の死後、キリスト教はローマ帝国の隅々まで広がり、現在に至る「世界宗教」にまでなりました。

彼は、代々のユダヤ教の信仰を受け継ぎ、高等な教育と訓練によりユダヤ教のエリートとなりました。彼は当初、誰よりも熱心にキリスト教を迫害していました。単なる一ユダヤ人であるイエスを「神の子」とあがめるクリスチャンに対して、「唯一の神様に逆らう反逆者」として許せなかったのです。その彼がある日、劇的な形で、復活のイエス様に出会いました（本当に劇的です。ぜひ改めて説明したいです）。そこから彼は 180 度回心し、今度は誰よりも熱心なクリスチャンとなって、キリスト教を広める者となったのです。

けれども彼の伝道は、最初からうまくいっていた訳ではありません。最初は自分の知識と体力をフルに発揮して、熱心に伝道しました。けれどもその時には、目立った成果を上げることができませんでした。その後、彼は周囲からの激しい迫害と、そして思いもがけない持病の発症によって、体力、気力とも劣ってしまい、以前のような積極的な伝道ができなくなってしまいました。ところが、彼が弱くなってからの方が、伝道が上手くいくようになったのです。

社会では強い方が良いのかもしれませんが。けれども神様の愛は、反対です。強さではなく自分の弱さが、優しさと愛を生み出すのです。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆冬の健康に気をつけましょう。

- ・まだまだ余談の許されないコロナと今冬は非常に流行っているインフルエンザ、双方の予防を心がけ、できるだけ感染しないように、帰宅した時には、手洗い、うがいを施行し、規則正しい日々を送りましょう。
- ・十分な睡眠（早寝・早起き・朝ご飯・朝ウンチ）そして、バランスの取れた食事をご用意ください。体調の悪い時には、消化のよい食事をお願いします。

☆親子(家族)の対話を大切にしましょう。

- ・絵本や素話、日々の出来事や新聞掲載の社会事象等、またインスタやブログなどの写真にも触れて、子供たちの日々に触れ家族で話し合いをしてみましょう。
- ・年齢（個々）に合った対話を心がけ、お子さんの考えや感想や反省も含めて、しっかり家族として受け止められる機会（発言の場）を持ってあげましょう。

☆冬から初春を迎える自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

- ・園の周りの草花、樹木にはどんなものがあるのでしょうか。春を見つけてね。
- ・暦上の節分の意味を知り、太陽の明るさ、日の出、日没時間の変化、雑草の芽吹き、木の芽、枝等の変化を見つけ合い、神様の業に触れてみましょう。

[クラスだより]

<花組>

鬼のお面の制作に今年も取り組みました。今年は、①好きな箱を選び、次に好きな色の絵の具を選んで筆で塗る。からスタート。この①で、何人かの子どもたちは、「先生、これ何にすんの？（何になんの？）」「先生、何で絵の具塗んの？」と先を見越した質問を投げかけ、何の為に絵の具を塗っているのかな？という疑問や期待を抱いている姿はいきいきとしていました。また、久しぶりの絵の具に没頭し黙々と色を塗り重ね、「楽しい～！」これが何になるとか、この後どうするなどなく、ひたすらに絵の具に集中して楽しむ姿もあり、これも大変子どもらしく素晴らしいと感じました。そして、翌日②「ないたあかおに」の素話を聴きました。心の優しい鬼さんもいるんだな～と感じ、また鬼さんの色について、自分が見たことのある鬼さんの色を口々に教えてくれて、その後のスキップつかまえではスキップしている先生やお友だちの服の色から「あ～先生は黒鬼さんや～！わはは～～！」「〇〇ちゃんは黄色鬼さん～」「あっ！〇〇くん青鬼さん！」と盛り上がっていました。そんな子どもたちに「鬼さん作るっか！」と投げかけると...「あっ！」と気が付いたお友だち「昨日の絵の具の(箱)鬼さん

にしたい～～！」「いいね～！そうしたら、明日鬼さん作るうね！」と約束しました。③前日の約束をしっかりと心に刻んでいたお友だちもいて、「先生、いつ鬼さん作るん？」「ど～やって鬼さん作る？」等、もうやる気！満々。そして、メリーちゃんサークルの日なので設定保育の場を教会会館へ...鬼さんのお面（お顔）を作るのに、子どもたちに何をしたいのか尋ねると、「角をつける～！」「髪の毛～」「お目目！」「鼻？」等など...それぞれもう思いが止まりません。先生が用意した材料は、毛糸・モール・ボタン・クレヨン・シール・ボンド・両面テープ。先生がまず見本で作ってみると、みんなもうワクワクが止まらないのがその表情から伝わってきました。先生の真似をするのかな？と思いきや、もうみんな自分の思い、好みを全面に出してどんどん取り組んでいきました。うん！いい！みんな楽しんで取り組めてる！でも、この先の子どもたちの姿がこの日の一番嬉しい姿でした。④それぞれ出来上がったオリジナル鬼さんを「〇〇ちゃんの髪の毛面白いね～！」「わあ～それどうしたん！」とお互いの鬼さんに興味を持ったり、お友だちの鬼さんを上手！と褒めたり、ご自分の鬼さんを「これ見て！」と自慢気にアピールしたり...あちらこちらで笑い声が生まれていました。そして、出来上がりを見に来てくれた園長先生と愛先生に何とも得意気に見せています。22名の久しぶりの沢山の花組さん。22名のそれぞれの子どもたちは、出来上がった鬼さんが全く違うのと同じように、同じ年齢でも感じ方や出来ること出来ないこと、得意なことも違います。もちろん、花組の間にこんなことは自立して欲しい、という目標や、こうやって園生活を送り成長して欲しいという願いがあります。その目標や願いを念頭に毎日過ごす中で、今日はこれが足りなかったかな...もう少しこうしてあげたらよかったかな...遊びや活動の時間はこれでいいかな...と22名の子どもたち一人ひとり余すことなく園生活を有意義にしたい、してあげたい...と思い悩むことも多くありました。制作を通してのある日の一コマですが、子どもたちがお互いに交わり言葉を掛け合い、認め合ったり、気に掛けたり。お友だちと関わる中で、お友だちの思いに触れて考えたり、思いや気持ちが通じることを楽しんだりしている姿を見て...うん！いい！花組さん！と・・・、思い悩んでいる場合じゃない！子どもたち、個々でも！クラスとしても！しっかり成長してる！そして・・・何だか「ありがとう！」とみんなに言いたくなりました。

もう2月、残された今年度の花組の時間は僅かとなりました。大切な時間を、さらに一人ひとりの子どもたちの思いに寄り添い、子どもたちの力を信じて、子どもたちと過ごせる恵みに感謝したいと思います。

<赤組>

「私の手、めちゃくちゃ冷たいんやで」と触って確かめて欲しいアピールをする可愛い子どもたち。けれど、冷んやりとしている手を包み込む私の手の方が冷たい（末端冷え性です...。）ので「先生の方が冷たい～！」そのままほっぺを触ると「うぎゃあ～！」と、逃げながらも向かってやってくる...！これまた可愛い子どもたちとのやり取りで、寒くてもどこかホッコリします。寒い冬も吹き飛ばして元気に春に向けて過ごしていきましょう。

最近の赤組さん、「お弁当に何いれようかな？」とご家庭でも話の話題になっている

かな？と期待しておりますが、クラス便りでも少しお伝えした通り、「食」について日々に触れています。赤組になってすぐの頃を思い返すと、好き嫌いがはっきりしており、昼食に苦戦していた子どもたちでした。嬉しいはずの食の時間が「苦」の時間になっていないか心配していましたが、自分自身と葛藤しながら苦手を克服したり、嫌にならない食べ方を知ったりして今ではすっかり「楽しい」と思える時間になったと確信しています。そこで、今回の活動に繋がりました。そもそも私たちが口にしていない食べ物には何があるのかな？その食材がどんな手を加えられて（調理器具に触れる）調理され、どんなお料理になっているのかな？そもそも、食べ物には栄養があり3つのグループに分かれて身体をつくってくれているんだよ！など、様々な事柄に目を向け、楽しみながら進めてきました。その最終形態としてオリジナルのお弁当をそれぞれが作りました。まずは何をいれたいのかを考えましたが、好きなものだけいれたい！となるかと思っていました。しかし、苦手なお野菜を入れたいと言ったお友だちが何人もいて驚きました。実際に食べたくはないけれど「ここは嫌いな物の部屋」と嫌いな物を詰めるお友だちもいたくらいです。子どもたちに私の伝えなかったことが伝わったのかそれぞれが栄養たっぷりになり、そして様々な食材に興味をもてるようになりました。画用紙を作りたい食べ物の形に切ってお弁当に詰めていきます。制作中は「美味しそうですよ？」「顔を描いて可愛いお弁当にしよう」と、楽しみながらオリジナルのお弁当が作れました。これを機にご家庭でも、「今日は何がいい？」と献立の会話しながら考えてみたり、一緒にお料理などをして「食」に触れて楽しんでいただくのはいかがでしょうか。

さて、3学期に入り緑組になる準備を色々な形で始めている赤組さん。「大きくなる」「緑組さんになる」ということは見えないもので、イメージしにくいことです。見える形（可視化）でということで、緑組さんから椅子を1脚貸してもらいました。1人ずつ日替わりで座っていきます。その赤組のお部屋に置かれた1脚の緑（緑のテープが貼られています）の椅子。その椅子を前に、ひとつ大きくなるための準備として、まずは、緑組さんってどんなお兄さん・お姉さんかな？と子どもたちと考えてみました。最初はそんなことを考えながら遊んでいるわけではないので「わからない」と言っていた子どもたちでしたが、緑組さんを観察していこう！と3学期当初に提案すると1月末には、「お祈りしている時（姿勢が正しくて）かっこいい」「お歌を歌っている時がかっこいい」「一緒に遊んでくれて優しい」などと気付いてきた赤組さん。今度はそれらを自分自身に取り込み、進級までには「どんな緑組さんになりたいのか」を考えようと思います。かっこいい緑組さんに教えてもらいながら学び、憧れの気持ちをもって、憧れられる存在になるのだと、前向きに進級出来ればなと思います。

赤組さんで過ごせる日数は残り31日となりました。一日一日を大切に、7人で感情をぶつけ合いながら 受け入れ合いながら、共に進級へと向かっていけるように支え、過ごして行きたいと思います。

<緑組>

思い返せば夏季保育のお昼寝の時間。お昼寝といっても、なかなか眠れないお年頃になった緑組は、大概ホールに布団を並べてゴロゴロしている時間が多く、そこに私が混じると「ねえ、お泊りってあるんでしょ？」「なにをするの？」「いつあるの？」と矢継

ぎ早にいろんな質問を受けては、「何食べる?」「かき氷!」「私はアイスがいいなあ」
「じゃあさ、いろんなソース選べるようにしてさ、みんなが好きな食べられるように
したらいいんじゃない?」と...尽きぬ期待に胸を躍らせていたのは半年も前のことで
す。それから、折に触れては「お泊りあるんでしょ?」「どうやって寝るの?」「何す
るの?」と宿泊への期待を膨らませる子らの姿がありました。一方で、宿泊保育が近づ
くにつれ、言い知れぬ不安に駆られ、「ママと一緒にいい」「お泊り嫌だ」と夜な夜な
涙し、直前に蕁麻疹が出たり、「あれ?お母さんも一緒にお泊りするんでしょ?」と混
乱しながら当日を迎え、送り出されたお家の方はきっと心配されたことでしょう。で
も...子どもたちはわかっていました。不安で心配なこともあるけれど、心底「嫌」な訳
ではないことを。そして、お泊りしてみたいという「ワクワク」する気持ちが心の中に
ちゃんとあることを。子どもたちの一泊二日は、お家の方から離れて過ごし、友達と過
ごす「はじめて」の夜でした。寝付けないかもしれない...と心配していたお子さんほ
ど、あっという間に寝息をたてはじめ、私たちを驚かせてくれました。聞き取れないけ
れど、何かしらの寝言。パジャマの襟ぐりに手をつき込んで抜けなくなった子と「なん
でこんななったんだ??」と夜中に笑い合いました。小分けされた荷物にこっそりと家
族の方が忍ばせてくださった手紙を見つけて、はにかむ子どもの姿。夜中に手洗いに起
きても、洋式トイレに入らず、普段の和式を使う子に感心したり、お布団を畳んで、運
ぶ、積む...を互いに分担し合って準備、片付けに励みました。みんなで相談して決め
た、メニューながら、苦手な野菜に苦戦し涙しつつも「がんばれ〜」と応援されて、「こ
んだけは、食べてきてほしいです」とレストランの店長(園長先生)に促され、空っぽ
になった器を手に、満面の笑顔と乾いた涙。みんなで囲んだ炎は、小さくても美しくあ
たたかで「感動しました、神様ありがとうございます」とお祈りになりました。ここには書き尽
せないほど、一人ひとりにいろんな感情が起こり、一人一人が面白い!楽しい!と心に
刻み、そして「ありがとう」できた宿泊保育でした。この「ありがとう」は、友達に、
お家の方に、花組・赤組のみんなに・お布団屋さんに・巡回して下さったおまわりさ
んに・お散歩に行く道中「こんにちは〜!」と手を振る子どもらに手を振り返してくだ
さった市バスの運転手さん、タクシーの運転手さん、町の皆さんに。お店から出てき
てまで、手を振り返して下さった「あーすきっちゃん」の店長さんに。「嫌いやのに食
べられた!」と美味しい焼き芋を準備して下さった亨先生に。お泊り幼稚園と聞いて、
子どもたちのこと、先生たちのことをお祈りして下さった教会の方々に...届けたいで
す。子どもたちは、こんなにたくさんの方々に愛されています。一泊二日で、何かが大
きく変化することはないけれど、お家の方から離れても「できる」「できた!」を実感
し成長したことは間違いありません。卒園を前に、それも真冬に...なかなか珍しいかも
しれませんが、この時期だからこそその子どもの姿に、私を含めた先生たちは、笑って泣
いて、大変だったけれど感謝できるのだと思います。子どもたちの大きくなったね!そ
して、あとは、卒園に向けてラストスパートです。とうとう卒園まで1か月となりました。
12人が7校に分かれます。一緒の時間を有意義を過ごしたいと思います。お家のか
たもご一緒に笑って泣いて...忙しくなりそうです♪